

水稻の生育情報

「コシヒカリ」では幼穂形成が始まっています。
間断かん水の実施や斑点米カメムシ類防除の検討をしましょう。

概況 (7月1日「コシヒカリ」定点ほ場調査から)

平年と比較して、本年の6月下旬の平均気温は低く、日照時間は少なく推移しました(図)。水稻の生育は、平年と比較して草丈はやや低く、茎数はやや少なく、葉色はやや濃くなっています。7月1日時点で2地点において幼穂形成が始まっています(表)。

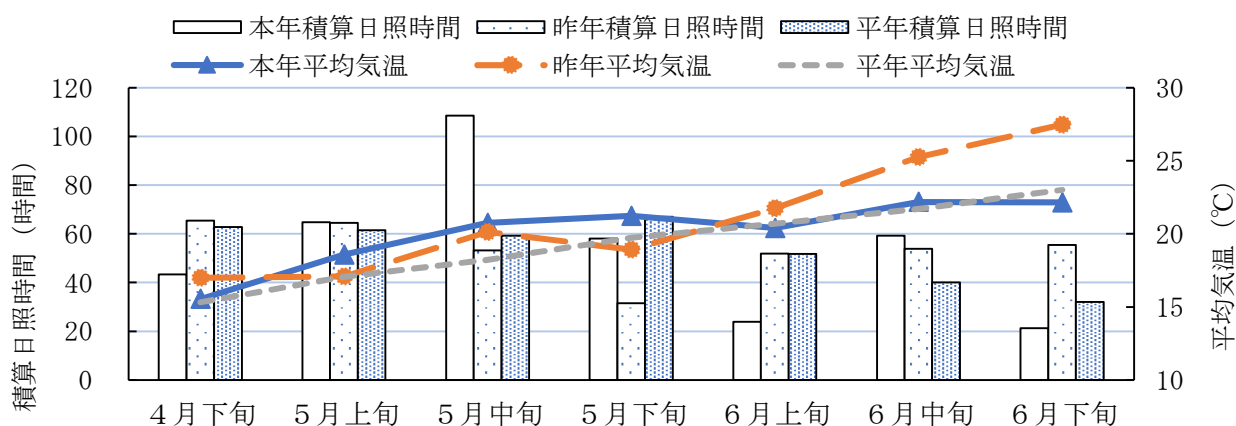


図 4月下旬から6月下旬の旬別平均気温と日照時間(古河アメダス) (注) 平年値は1991年～2020年の平均値

表 「コシヒカリ」定点ほ場の生育調査結果 (令和8年7月1日現在)

調査地点	田植日 (月/日)	植付本数 (本/株)	栽植密度 (株/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉色 (葉色板)	幼穂長 (mm)	出穂期予測 ^{※2} (月/日)
坂東市	4/28 (4/25) ^{※1}	4.6 (4.8)	18.5 (15.5)	68 (77)	26 (35)	478 (545)	3.6 (3.9)	5.2 (3.4)
境町	5/17 (4/27)	4.5 (4.5)	16.7 (14.9)	67 (79)	23 (36)	381 (539)	3.9 (3.8)	1.0 (0.6)
五霞町	5/5 (5/6)	4.8 (5.1)	15.9 (15.6)	71 (72)	31 (35)	493 (545)	4.1 (3.6)	0.0 (1.3)
古河市	5/5 (5/9)	4.5 (4.6)	15.9 (17.1)	69 (69)	31 (29)	486 (484)	4.5 (3.6)	0.0 (4.0)
4調査 地点平均	5/6 (5/1)	4.6 (4.8)	16.7 (15.8)	69 (74)	28 (34)	459 (528)	4.0 (3.7)	1.6 (2.3)

※1 ()内は過去5年間の平均値

※2 出穂期予測は今後の気温が平年並みに推移した場合の予測値

今後の栽培管理

○5月中旬までに移植した「コシヒカリ」では幼穂形成が始まっていますので、中干しを終了し、3～4日間隔で入水と落水を繰り返す「間断かん水」を実施しましょう。

○斑点米カメムシ類：過去11年で最多の発生量！徹底防除を

病害虫防除所の6月下旬調査(7月号予報)によると、県西地区の斑点米カメムシ類発生量が過去11年で最多であり、徹底した防除が必要です。

- ・出穂期～穂揃期の防除は不稔(減収)を防ぎ、乳熟期の防除は品質低下を防ぎます。
- ・出穂直前の草刈りは本田への追い込みを招くため、畦畔除草は出穂2週間前までに完了させましょう。

「暑さに負けない米づくり」チラシ
茨城県、JAグループ茨城
令和8年2月

